

414  
A 690

第二十号 十夜

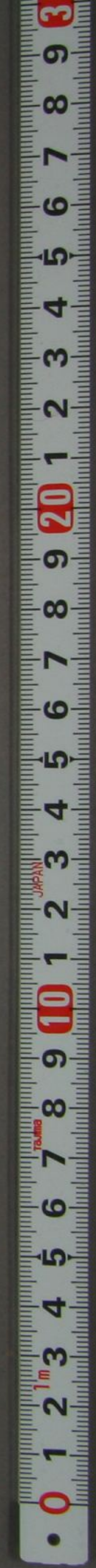
千八百七十三年六月二十七日  
ランシスに刊行毎週新聞ヨリ譯出

佛蘭西日耳曼兩國ノ交際不和  
ナル事并ニ戦鬪ノ設備ヲ為ス



六月十九日新育ヨリ 昨日受取リシロンドン  
タイムス新聞ニ當時維也納ニ在ルウバリックル  
氏ヨリノ書翰ヲ載セタリ其語ニ曰ク方今日耳  
曼帝國ト佛蘭西トノ交際上ニ於テボスマ  
ノ為ニ頗ル注意ス可キ事起レリ但シ余カ知

天正十一年四月  
天候爵邸寄贈





ル所ニテハ、索國ニテ備急兵ヲ用意シ既ニボリ  
ニ及ヒシレシア等ノ諸州ニ於テハ現ニ進行  
ノ準備出来シ又伯靈ニ於テモ大ニ兵ヲ屯集ス  
余初ノハ操練閱兵ノ為メ斯ク兵ヲ備フルナリ  
ト思ヒシニ或人ノ説ニ是レ全ク佛トノ交際危  
キニ因レリト言フ又方今ノ佛國大統領遠カラ  
ス外國兵ヲシテ其邦内ヲ引拂ハシメント期望  
ニ由リ日耳曼政府大ニ疑心ヲ生シ日耳曼公使  
ヨリ大統領ノ兵勢ノ事ヲ説キシハ何寺ノ故ナ

ナルヤ之ヲ辨解ス可ト旨ヲ佛ノ政府ニ掛合ヒ  
次ノ水曜日ニハ其決答アル可キ筈ニシテ大統  
領ハ是非トモ戦ヲ欲スルノ意アラサル旨ヲ答  
フ可シト雖トモ日耳曼ニ於テハ猜疑不安ノ念  
頗ル熾ニシテ殊ニ奧地利及ヒ匈牙利ニ於テ兵  
備ヲ為シ奧帝ノ一族近來波蘭人ヲ奮發セシム  
ル言語ヲ述ハ且奧國專ラ意ヲ兵事ニ留メテ兵  
器裝具等皆極メテ新發明ノ者ヲ用フルニ至リ  
及ヒ奧國新聞紙ニ日耳曼ニ抵敵スル文ヲ記  
スル等ハ皆日耳曼ノ為メ大ニ不安ノ念ヲ懷カ



シムルノ原因ニシテ方今埃國ニテ字國ノ威カ  
ヲ懼ルハノ説ハ之ヲ信スル者寡ナシ蓋シ方今  
日耳曼ノ兵更ニ佛國ニ侵入スルヲアラハ歐洲  
各國ノ廢置如何ナル可キヤ今試ミ之ヲ謂フ  
ニ日魯ノ兩國ハ陰ニ謀ヲ通スルヲ畧衆人ノ信  
スル所ニシテ若シ日耳曼佛ヲ攻ムル時ハ魯國  
後ニ在リテ埃國ノ仙ヲ援クルヲ抑制ス可キカ  
故ニ埃國ノ廢置ヲ決スル甚ク容易ナラス又英  
國ハ彼諺ニ云ハル如ク假令天ノ落ケ来ルヲア  
リトモ平和ヲ守ル可キノ形勢ニシテ敢テ干戈

ヲ動カスヲ欲セサル可シ蓋シ字漏生及ビ北日  
耳曼ニ於テハ恰モ兵士ノ重クニテ地マテモ呻  
声ヲ發スルカ如ク兵數過多ナルノ弊害實ニ堪  
フ可カラスト雖トモ埃佛ノ兩國共兵備ヲ為ス  
間ハ日國ノ兵數ヲ減少ス可カラサル勢ヒノ已  
ヲ得サルモノトス又埃國ハ自國防衛ノ為ノ兵  
ヲ備フルニシテ專ラ其東境ヲ守リ敢テ北西ノ  
方ヲ顧ミサル旨ヲ陽ニ述フルト虽トモ若シ埃  
ニテ字ノ為ノ少許ノ猜疑ス可キ廢置ヲ作テハ  
忽チビスマルクヨリ其何等ノ故タルヤ辨明ス



可キヲヲ填ニ迫ル可シ蓋シ方今日耳曼ノ形勢  
ハ兵ノ過多ナルニ因リ教育学校ノ事務ハ大ニ  
衰ハ既ニ全國ノ学校中ニテ教師ニ乏キカ為メ  
閉校スル教四千箇ニ及ビ大中学校ノ教師幾シ  
ト缺員ナラサルトク或ハ藝術ニ從事シ或ハ法  
律学ヲ研究シ或ハ法教ヲ講説セントスル者ノ  
教大ニ減シ其形勢ハ戦ニ勝テ却テ國ヲ害スル  
カ如クナレハ多年此僥ニ為シ置ク可キニ非ス  
而メ今日耳曼人ノ為メ之ヲ擬シ言ハシニハ  
填國速ニ其兵備ヲ止ム可シ然ラズンハ我

吾大軍ヲ進メ一舉シテ之ヲ征服セント  
此ニ於テク深慮アル日耳曼人ハ政府此際ニ當  
リ人民婚姻ヲ為スニ敢テ僧徒ノ會同ヲ要セサ  
ルノ新法ヲ設ケテ信實ナル天主教徒ノ人望ヲ  
失フヲ憂ヘサルナリ而シテ天主教徒及ビ激烈  
ノ自由党ハ其説互ニ異ナルト最モ甚クシト云  
トモ共ニ政府ノ處置ヲ誹謗シ又ビスマルクカ  
近來設ケシ出版検査ノ法モ國人ノ心ヲシテ大ニ  
狀暢ナラシムル者ト謂フ可カラズ

白耳義



六月十九日倫敦ヨリ  
ニ曰ク嘗テ佛國ニ於テ内乱ヲ起セシ激徒ハ魁  
首中ノ一人タルクリエベンノ白身義ノ地ニ入ラ  
シトスル免許状ヲ乞ヒシニ同國政府之ヲ許リ  
スシテ若シ同國ニ來ルヲアテハ之ヲ捕獲シテ  
佛國官員ニ引渡ス可キ旨ヲ答ヘタリ

西班牙

六月二十一日馬德里ヨリ  
西國ノ為メ米利堅聯邦ト同シキ共和政治ノ憲  
章ヲ作ル最中ナリト蓋シ西國ヲ教部ニ分チテ  
執權カステラル氏

聯邦ト為シ其邦教ハ十五箇ニシテ馬德里ヲ首  
都ト為シバ島及ヒポソニ諸島モ其聯邦中  
タル可ク其聯邦ノ大統領ハ全國人民ノ投票ヲ  
以テ推選ス可シト云フ  
六月廿五日倫敦ヨリ  
西國北方ノ元帥ゼ子ラ  
ルノウウエラスハ其指揮スル教小隊ト共ニバム  
ペリエテノ近傍ニテカルロス党一揆ノ為メニ捕  
虜セラレタリトノ風説アリ  
同月同日馬德里ヨリ  
本月二十一日ニ  
ルヲニ於テカルロス党ノ一揆ト共和政治政府



ノ兵ト戦ヒシカ一揆敗レテ死者六百人傷者三百人アリ政府ノ兵ハ僅カニ死者四人傷者六十人ニ過キスシテ一揆ノ將ヲルロカ兵ドレガレ引ノ兵ト別レテ四方ニ散乱シ政府ノ兵之ヲ追撃スト云フ然ルニカルロス党ヨリノ報告ニハ此風聞全ク虚説ニシテカルロス党ノ將エルロバテシカニテ共和政治ノ兵ヲ敗リ二十人ヲ俘虜セリト云フ其真偽未タ詳ナラス  
バルセロナニ於テハ更ニ騷動起リ兵士ト市民ト終夜戦闘セシカ翌日兵士ヲ尽ク郭外ニ退カ

シノ選卒ヲ備ヘテ更ニ戦闘ノ起ルヲ防キタリ藩屬地局ニ於テキバ島ノ奴隸ヲ釋放シ其持主ニハ官ヨリ償ヲ賜ハル可キ議案ヲ作レリ

意太利

六月廿五日羅馬ヨリ 方今更ニ宰相ノ易ハラントスル勢アリテ宰相等其會計議案ヲ議院ニ於テ決議セシメンドセシニ議員之ヲ拒ム者百五十七名之ヲ諾スル者僅カニ八十六名ナリ宰相ノ長ロウガ氏此旨ヲ聞クヤ否忽チ之ヲ王ニ上言シテ明日迄ニ議員ニ宰相局ノ所置ヲ報告



不可キトヲ述タリ  
其後ノ報告ニロウヂ氏立リシニ在ル王ニ電報  
シテ自身初ノ宰相一同職ヲ辞シミンカダツチ氏  
及ヒ議員中ノ者ヲシテ宰相ノ職ニ就カシム可  
キトヲ願フタル由  
意大利ニテ法教社中ヲ禁止スル法律ヲ行フニ  
付テハ佛澳ノ兩國共ニ其處置ヲ助ク可キ旨ヲ  
各其政府ヨリ報告シタリ  
ラビニラン新聞ニロク澳佛ノ兩國意國ヲ攻ム  
ルノ條約ヲ結ビタルニ因リ意國ヨリ他國ニ助

ヲ乞フトノ風聞ハ全ク無根ノ浮説ナリト

日耳曼

六月廿五日伯靈ヨリ  
議院ヲ閉テ議員ニ向ツテ言ヒケルハ皇帝疾病  
ニ罹リテ本日閉議ノ式ニ出席シ給ハサルハ頗  
ル遺憾ノ事ナリト雖トモ不日ニシテ全快ニ至  
リ給フ可シト  
日耳曼帝病ニ罹リテ維也納博覽會ニ赴クヲ能  
ハサルニ由リ皇后アウグスタ其名代トシテ本  
日維也納府ニ来着セシカ澳國政府及ヒ其人民



皆之ヲ接待スルヲ甚々厚シ

キューバ島ノ戦闘

六月二十日新育ヨリ 嘗テ中共亜米利加ノ共和政治国コロムビアヨリ中共亜米利加ノ各国民ニ檄文ヲ出シテ西班牙政府ニキューバ島ノ獨立ヲ許ルス可キヲ言ヒ贈リ若シ西国之ヲ諾セザレハ共ニ合従シテキューバヲ援ク可キヲ需メシニゴスタリカ国ハ其檄文ノ旨ヲ承諾シタリハバナヨリノ報告ニ 西班牙人キューバノ海岸ニ於テ荷物ヲ載セザル空船數隻ヲ見得タリシガ

何レモ其遺方并ニ其在リ場所ニ據テ之ヲ推考スレバ他国ヨリキューバ人ノ方ニ兵益彈藥等ヲ送りタル船ト思ハレタリ又キューバ人ノ説ニ不日ニシテ他国ヨリ援兵ト彈藥トヲ得可キ由ナリ

六月廿五日ハバナヨリ 近日ピュエルトプリンシペノ追傍ニ於テ戦アリシカ西班牙ノ将マジョルロマニ戦死シ其兵九十人ノ中僅カニ遁ル者十五人ニシテ其餘ハ皆一揆ノ為ニ殺サレ但シ此地方ノ一揆ハ頗ル勇敢ニシテ過日モ番兵ノ目前ニテ砲台中ニ鞠送スル食料彈藥等



ヲ奪取リタリ

中央並米利加

六月十六日 パナマヨリ ガテマラヨリノ報告  
 = 其東方ノ一揆鎮定スル迄ハ政府國ヲ廢スル  
 = 兵律ヲ以テス可シト云フ又近日一揆トノ戦  
 = 政府ノ兵勝ヲ得テ一揆ヲ殺スル世名ナリト  
 同國政府前ノ元帥 アイズブラ及 ヒナン ドサカ  
ラン サノ三名ヲ捕縛セシカ皆政府ヲ覆サント  
 スルノ陰謀發覺シタルニ因レル由ナリ  
サン サル ワ トルハ常テ大地震ノ為ノ家屋不殘

崩壞セシカ其新築次第ニ落成シ以前此府ヲ去  
 リシ人々ニ追々歸來レル趣ナリ

英國貴族ノ有益ナル説

英國貴族ノ有益ナル其閑スル所甚ク大ニシテ  
 其尊マレヤ女王ニ及ハスト雖トモ頗ル人民  
 ノ尊敬ヲ受ル者トス蓋シ英國ニ於テ貴族ヲ置  
 クハ固トヨリ平民ノ為ノ妨害トナル者ヲ設ケ  
 又ハ不正ナル所置ヲ為スタメニアラス位爵ノ  
 尊クシテ冒カス可カラサルヲ示スニアリ夫レ  
 人ノ想像ノミニテハ其惑淺クシテ實物ニ就キ



考へザレバ能ク事理ヲ起悉スルヲ得サル者多  
シ故ニ位爵ノ尊キヲ知ラシムルニモ亦實物ナ  
ク能ハス貴族ハ即チ位ノ尊キヲ示ス實物ニシ  
テ是レ即チ貴族ノ尊マル、所以ナリ今試ミ  
之ヲ謂ヘハ通常ノ材智ヲ有シ相應ノ資産アル  
者ト雖トモ其身公平ナル時ハ都會ヨリ田舎  
ニ到リ敢テ農民等ノ尊敬ヲ受クルヲテシ然ル  
ニ智識乏シク資産モ豊ナラサル者ト雖トモ田  
家ノ貴族ナル時ハ田舎人ノ尊敬ヲ受ク可シ若  
シ又貴族負債多クシテ終ニハ其産ヲ破ルノ操

様アル者ト雖トモ農民等ノ為ノニ敬セラル、  
一巨萬ノ金ヲ有スル富商ニ倍徒シ貴族ノ愚論  
ハ人皆首肯シテ之ニ從フト雖トモ平民ノ名説  
ハ人之ヲ非議ス故ニ無智矇昧ノ愚民ヲ制御ス  
ルニハ論説モ督責モ能ク及フ可キニ非ス唯尊  
敬ノ念ヲ祭マシメテ之ヲ服従セシム可シ是レ  
貴族ノ國ノ為ノ有益タル所ナリ  
又國ニ貴族ヲ置ク時ハ敢テ新ニ一益ヲ生スル  
事無シト雖トモ弊害ヲ防ク事有ル可シ其弊害  
トハ何ソヤ曰ク所謂金ノ法教一名豊富ノ権カ



是ナリ蓋シ英人種ハ真ニ金ヲ神トシテ持スル  
ニ幾カク何事モ金ナラサルナリ金ヲ堆積  
シタル前ヲ通レハ必ス丁寧ニ挨拶ヲ為シカシ  
ク金ヲ蓄積シタル前ヲ過レハ嘲笑シ金ノ金タ  
ルノミヲ以テ切りニ之ヲ得ント欲スルノ天性  
アリ而シテ人々苟モ勞動勉勵シテ各利ヲ獲財  
ヲ集メテ活計ヲ為スニ方リテハ智アリテ夥多  
ノ金ヲ得タル者ハ之ヲ尊ミ愚ニシテ貧困ナル  
者ハ之ヲ賤ムモ自ラ是レ人ノ性ニシテ亦巴ム  
ヲ得サルノミニ非ラス故ニ救テ之ヲ誅議ス可

キニ非スト虽トモ此念適度ニ過キ智愚ノ別ナ  
ク濫ニ富豊ノ者ヲ尊ミ金塊ヲ金塊ト見テ只管  
之ヲ得ント欲スルカ如キハ甚ダ不當ノ事ナレ  
ハ斯クノ如キヲ防遏スルハ尊敬ノ心ヲ發動セ  
シムルニ如クス是レ即チ貴族ヲ置ク所以ニシ  
テ今日實際ノ模様ニ就キテ之ヲ看ル時ハ唯金  
ノミニテハ真ノ倫敦氣象ノ交リヲ結フ能ハサ  
ルヲ知ル可シ故ニ所謂金ヲ持スル法教ヲ制ス  
スルハ貴族ヲ存スルヨリ善キハ莫



譯

權大内史箕作麟祥





